

ぼらせん

仙台市ボランティアセンター広報誌

BORASEN

vol.22

2024
Summer

特集

東北学院大学

学生ボランティアの拠点



総合ボランティアステーション 運営チームの皆さん

震災をきっかけに、 ボランティア活動をサポート

東日本大震災発生後、東北学院大学では多くの学生が被災地でボランティア活動に携わりました。その後、東北学院大学災害ボランティアステーションがボランティアの拠点となっていましたが、令和5年に学内のボランティア組織が再編され、東北学院大学総合ボランティアステーション(TG-VNET)として新たな活動をスタートさせました。学生のボランティア活動を支える総合ボランティアステーションの取り組みをご紹介します。



運営チームのミーティング

Contents

特集

- 東北学院大学
学生ボランティアの拠点 1-3
- 学生の社会貢献 4
・宮城ボラ・インカレ2024
- 企業の社会貢献 5
・仙台放送
- 子どもの居場所づくり支援 6
・子どもも親も楽しむ親子食堂
- ボランティアセンターからのお知らせ ... 7
- イベントインフォメーション 8

特集

東北学院大学の社会貢献

学生のボランティア支援

東北学院大学

ボランティアでつなぐ 地域との絆



防犯ボランティアチームINGの皆さん



地域活動の支援



地域イベントのお手伝い



地域活動の支援



児童館での学習支援



能登半島地震の募金活動

一 学生ボランティアを支えるボランティア

1万1千人を超える学生が在籍する、東北最大の私立大学・東北学院大学。学内では学生セツルメント活動をはじめ、個人やサークルによるボランティア活動が以前から活発に行われてきました。

「ボランティア活動にチャレンジしてみたい」という学生の橋渡し役を務めているのが、東北学院大学総合ボランティアステーションです。ボランティアを希望する学生は、総合ボランティアステーションへの登録後、目的やテーマに合わせてボランティアチームに加わることができます。

現在は、近隣地区の見守りや特殊詐欺防止の啓発活動に取り組んでいる「東北学院大学防犯ボランティアチームING」、児童館での学習支援やペン習字の指導などにあたっている「てらいく〜寺子屋教育〜」、商店街の活性化に向けてSNSによる情報発信を続けている

「五橋つうしん」など、様々なチームが個性あふれる活動を展開しています。

全体の世話役ともいえるべき存在が運営チームで、チーム登録の補助のほか、ボランティア相談ブースの設置、ボランティアの活性化に向けた各種企画の立案、広報活動などを行っています。オリジナルの企画としては、「ひとりでも多くの学生に経験してもらい、ボランティアの魅力を知ってほしい」という想いから、誰もが気軽に参加できる「ワンディボランティア（一日体験ボランティア）」などを計画しています。

学生ボランティアを支える縁の下の力持ちとして、ボランティア活動をもっと学内に浸透させていきたいと語る運営チームの学生たち。学生ひとりひとりの熱い想いに支えられながら、東北学院大学のボランティア活動は、今後ますます進化を遂げていくことでしょう。

大学生の VOICE

VOICE No. 01 経済学部 共生社会経済学科 4年 瀬戸 信輝さん

東北学院大学総合ボランティアステーションの学生運営チームで代表を務めています。私はもともとボランティアサークルに所属しており、引退後の現在はサークルで出会った仲間と共に学生運営チームでの活動に日々励んでいます。

ボランティア活動に参加する以前は、ボランティアのハードルが高く、また、無償で従事するといった印象しかありませんでした。しかし、実際に活動に参加したことでボランティアの素晴らしさに気づき、今後は東北学院大学の学生の皆さんのボランティアに対するハードルを下げて、少しでも興味を持ち、参加してもらえるようにサポートしていきたいと思っています。

VOICE No. 02 経済学部 経済学科 4年 山本 咲良さん

大学入学時、コロナ禍でオンライン授業が多かったため、人とのつながりを持てずにいました。友だちづくりはもちろん、学外の方とも関わりがほしいと思い、ボランティアサークルに所属しました。

サークルでは企業様から協賛をいただき、仙台七夕まつりでの吹き流し制作や当日に実施する企画の考案を行いました。昨年度の企画では、仙台市のご当地キャラクターのフェイスシールドと宮城県の魅力を伝えるパンフレットを作成し配布しました。七夕まつりという伝統ある行事で、学生目線で宮城県の魅力を多くの人にお伝えすることができたと思います。

ボランティア活動を通じ、地域の魅力を再発見できました。また、たくさんの方と交流できたことから大切な仲間ができ、学生時代の人間関係の構築に大きく影響しました。

VOICE No. 03 教養学部 地域構想学科 4年 三浦 志穂さん

五橋キャンパスが新設され、キャンパス周辺にある地域のお店やイベントを学生にもっと知ってほしいという思いから、「五橋つうしん」という名前でも地域の魅力を発信する情報発信のボランティア活動を始めました。

主に大学周辺の荒町・連坊・むにゃむにゃ通り商店街を中心として、取材を行い記事にまとめてInstagramに投稿する活動を行っています。また荒町商店街のARスタンプラリー&インスタフォトコンテストへ企画段階から参加させていただき、学生の意見を地域のイベントに反映させながら、もっと地域を知っていただけるような機会の提供を行いました。この活動を通じて地域の魅力を今まで以上に深く知ることができました。

VOICE No. 04 法学部 法律学科 3年 吉村 明莉さん

「TGU防犯ボランティアING」は、安心・安全のまちづくりに興味を持つ学生によって設立され、学生と大学近隣地域(荒町・連坊)が連携して地域防犯活動を行っています。私は、数年前から参加している青少年育成ボランティアの経験を活かした活動を行いたいと思い、INGを始めました。

主な活動は、五橋キャンパス周辺地域で清掃活動を実施しながら行う「ながら見守り活動」、荒町・連坊にある金融機関前で「特殊詐欺被害防止に向けたチラシ配り」、防犯協会の方々の研修会や仙台市・警察署と連携した防犯活動などがあります。そして、昨年にはINGの活動の成果として、仙台中央警察署から感謝状をいただきました。

学生が活発に防犯活動を行い、防犯意識が上がることで地域全体の犯罪抑止力となれば良いと考えています。

VOICE No. 05 文学部 英文学科 3年 昆野 智里さん

運営チームは、言わば「ボランティアのボランティア」のような活動をしており、他ではなかなかできない経験を積めると思ったことが、このチームに参加したきっかけです。またサポート活動以外にも、運営チームの中でボランティアの企画を行っており、最近では能登半島地震の募金活動を行いました。大学校内と学外の二カ所で募金を行ったのですが、両日とも非常に多くの成果を上げることができました。

この活動を行っていく中で、多くの方からあたたかい言葉をかけてもらったことが、ボランティア活動に携わっていくやりがいとなっています。これからも学生のボランティア活動をより活発化するため、運営チームの一員として邁進していきたいです。

VOICE No. 06 法学部 法律学科 2年 五十嵐 大地さん

「てらいく〜寺子屋教育〜」は昨年の9月から活動している学生ボランティア団体で、ペン習字や学習支援を主な活動としています。

書道有段者のメンバーを中心に子供たちに字の重要性や楽しさを伝えるため、また、子供たちのコミュニティが減少する中で、楽しめる空間や地域との交流を提供する場を作りたいという想いから始めました。月2回、若林区内の児童館での宿題サポートやペン習字を通じて活動し、積極的にコミュニケーションを取り、子供たちに心地よい環境を提供しています。活動を通じて子供たちとの交流が深まり、地域の認知も増えてきており、徐々に子供たちに楽しい場所を提供している実感が湧いています。

これからも地域に根付く活動を続けていきます。

社会貢献

宮城ボラ・インカレ2024

ボランティアのきっかけづくり



▲各団体によるボランティア活動の紹介



▲会場の様子



仙台市社会福祉協議会がパートナーシップ協約を締結している大学の中で、ボランティアに興味のある学生を対象にした「宮城ボラ・インカレ2024」(キャンパス/仙台市社会福祉協議会主催)が、5月13日(月)に青葉区の仙台市福祉プラザで開催されました。会場には防災系サークルや子ども食堂、教育系のNPOなど、地域でボランティア活動を行っている21団体が集まり、各ブースに分かれて、日頃の取り組みを紹介しました。

「宮城ボラ・インカレ2024」の企画・運営に携わっているキャンパス代表の種市希美さん(東北大学3年)は、「ボランティアのきっかけづくりになればという想いで始めました。人とのつながりを通じて、もっと活動の裾野を広げていきたいですね」と声を弾ませていました。

ボランティアに興味があって、会場に足を運んだという大学生に声をかけたところ、「ボランティアとひと口にいても、いろいろな活動があって、びっくりしました」

「教育系の学科にいるので、できれば子どもたちを相手にしたボランティアをやりたいですね」などの声が聞かれました。

仙台市社会福祉協議会では、今後も大学と連携して若い力を活かしながら、一人でも多くの皆さんのボランティア体験を支えてまいります。

ボランティアを応援

仙台市ボランティアセンターでは、初めてのボランティアをサポートしています。

社会貢献

東北・みやぎ復興マラソン

震災の記憶を風化させないために



▲沿道で掲げる「ありがとう」のメッセージ



▲スタート地点



▲ボランティアによる給水所

東日本大震災から13年。被災地の復興の“今”を、マラソン大会を通じて感じてほしいという想いから始まった「東北・みやぎ復興マラソン」が、去年5年ぶりに復活しました。マラソンコースの約4分の3は津波の浸水域。去年より仙台市内からスタートするコースに生まれ変わっています。

「印象的なのが地元の皆さんの声援と走る人を支えようとするボランティアの方々の力です。沿道からは『がんばれ』ではなく『ありがとう』という感謝の声が響きます」と教えてくれたのは、東北・みやぎ復興マラソンの大会プロデューサー/レースディレクターを務める佐藤友治さんです。来てくれて走る人、沿道で声援を送る人、ボランティアの熱い気持ちがひとつになって、この大会を支えているように思います。

「ボランティアの皆さんの『運営のお手伝い]ができてよかった」という声は、私たちの大きな支えです。ボランティアには地元の中高生も参加してくれています。震災のことを知らない世代が増えていく中、私たちの

大会が震災のことを“知る・学ぶ”きっかけになってもらえればと思います。仙台・宮城の秋といえば、東北・みやぎ復興マラソンといわれるような地域の文化として、さらに大きく育てていきたいですね。

「東北・みやぎ復興マラソン2024」は11月3日。走ること、そしてボランティアの立場として支えることを通じて、皆さんも復興の軌跡を感じてみませんか。

ボランティア募集中

「東北・みやぎ復興マラソン」はランナーだけでなく、ボランティアの皆さんも主役になる大会です。一緒に大会を盛り上げませんか。

「東北・みやぎ復興マラソン」の【ボランティア募集】詳細情報についてはこちらのQRコードより▶

子どもの居場所づくり

～ 親子で集える かけがえのない居場所 ～

子どもも親も楽しむ 親子食堂 (仙台市泉区)



一 保育士と管理栄養士による居場所づくり

子育て中のお母さんたちが親子で集まれる場所をつくりたいという想いから、令和4年8月から泉区を拠点として活動しているのが「子どもも親も楽しむ 親子食堂」です。代表で保育士の諏訪部美智江さんと管理栄養士の今藤結理さんが協力して立ち上げたこともあり、楽しさと美味しさの両面から親子の居場所づくりに取り組んでいます。

ふだんは小さなお子さんを連れてお母さんたちで大にぎわいですし、小学生が来たときには「お兄ちゃん、お姉ちゃん」と慕い、小さな子どもたちが大喜びになるそうです。

「今の子どもたちにとって、縦の関係は貴重な体験です。他の子と一緒にご飯を食べる機会を提供できるのは、この親子食堂の大きなメリットですね」と諏訪部さん。

アレルギーや離乳食のことまで考えた愛情たっぷりのお食事はもちろん、わくわく感あふれる遊びや読み聞かせ、東京おもちゃ美術館監修のおもちゃライブラリーなどを通じて、お母さん同士が寄り添える居心地の良い居場所となっています。楽しさ満載のInstagramを見てリピーターになる方も多いそうです。

「いずれは小学生向けのイベントを開いて、もっとお兄ちゃんやお姉ちゃんたちにも喜んでほしいですね」と今後に向けた想いを語ってくれました。子どもも親も笑顔にしてくれる親子食堂は、地域のかけがえのない居場所です。

INFORMATION

「子どもも親も楽しむ 親子食堂」に関する情報 (Instagram) は

@親子食堂 <https://oyako-shokudou.com/>

仙台市ボランティアセンターからのお知らせ

災害ボランティアセンター 運営サポーター養成講座

参加者募集中

災害ボランティアや、災害ボランティアセンターの運営について一緒に学びませんか？いざという時、あなたの力が被災した方々の支えになります！

開催日
令和6年8月29日 (木)
13:30～15:00

場所
仙台市福祉プラザ1階
プラザホール

対象
仙台市内在住もしくは通勤・通学をしている18歳以上の方



お申込はこちらから

右記QRコードから「申込フォーム」に必要事項を入力してお申込みください。



届けるボランティア活動 ～ 非接触型ボランティア活動サロン ～

参加者募集中

申込不要

地域の高齢者や子どもたち等に向けて、手作りの品を作成しメッセージカードと一緒にプレゼントする「届けるボランティア活動」をしてみませんか？あなたのプレゼントが地域の方々の笑顔につながります！どなたでもお気軽にご参加ください！

日時
令和6年4月～令和6年10月
第1・3土曜日 10:00～15:00
(お昼休憩12:00～13:00) ※出入り自由

場所
仙台市福祉プラザ4階
仙台市ボランティアセンター

対象
ボランティア活動に興味のある方

内容
地域の方々に向けたプレゼント

手作りの品・メッセージカード・返信用はがきの3点セットの作成



メッセージカードと一緒に地域の方にお届けします！

プレゼントを受け取った方からお返事が沢山届いています！

イベントインフォメーション

障害理解サポーター 養成研修 市民向け講座

障害のある方を講師に、障害や必要な配慮とは何かを学べる講座です。ぜひご参加ください!

開催日 令和6年7月11日(木)
10:00~11:30

場 所 仙台市福祉プラザ1階プラザホール

内 容 【講義】障害について知ろう!
【座談会】当事者講師に聞いてみよう!

対 象 仙台市内在住の方が仙台市内に通勤・通学している方

参加者
募集中

お申込みは
こちらの
QRコードより▶



アートカフェ

仙台市ボランティア連絡協議会の皆さんと一緒にハンドメイド作品を作りませんか? 作り方を覚えてお友達に教えてあげてもよし! おうちで楽しんでもよし! 年齢性別問わずどなたでも大歓迎です。ぜひご参加ください。

日時 7月10日(水)
10:00~15:00
(お昼休み12:00~13:00)

場 所 仙台市福祉プラザ4階 仙台市ボランティアセンター



青葉区ボランティアセンター

仙台市青葉区二日町4-3 仙台市役所二日町分庁舎1階 TEL022-265-5260

青葉区宮城支部事務所

仙台市青葉区下愛子字観音堂27-1(仙台市宮城社会福祉センター内) TEL022-392-7868

宮城野区ボランティアセンター

仙台市宮城野区原町3-5-20 メゾン坂下1階 TEL 022-256-3650

若林区ボランティアセンター

仙台市若林区保春院前丁3-1 若林区中央市民センター別棟1階 TEL 022-282-7971

太白区ボランティアセンター

仙台市太白区長町南3-1-30南部アーチル1階 TEL 022-248-8188

泉区ボランティアセンター

仙台市泉区七北田字道48-12(泉社会福祉センター内) TEL 022-372-2603

▼ 掲載記事に関するお問い合わせは仙台市ボランティアセンターまで ▼



社会福祉法人

仙台市社会福祉協議会

仙台市ボランティアセンター

〒980-0022

仙台市青葉区五橋2丁目12-2 仙台市福祉プラザ4階

TEL 022-262-7294 FAX 022-216-0140

▼ホームページはこちら

<http://www.shakyo-sendai.or.jp/>

仙台市ボランティアセンター

検索

